12. アフリカ

アフリカの日本語教育の状況

アフリカの機関数は68機関（前回（2018年度）調査比28.4%減）、教師数は129人（同40.3%減）、学習者数は6,616人（同38.8%減）となっており、大きく増加していた前回調査から減少したことで、前々回（2015年度）調査と同程度になっている。なお、今回調査で新たにセーシェルとナイジェリアで日本語教育の実施が確認され、ブルキナファソでは再開が確認できた。一方、エチオピア、ザンビア、タンザニア、モザンビーク、ウガンダの5か国では日本語教育の実施が確認できなかった。

同地域内で機関数が多いのはケニア（26機関）、マダガスカル（19機関）で、教師数はケニア（44人）、マダガスカル（37人）、ガーナ（14人）、コンゴ民主共和国（13人）の順となっている。学習者数ではマダガスカルが2,413人で最も多く、次いでケニアの1,726人、ガーナの814人、コートジボワールの634人の順となっている。

前回調査からの増減を国ごとにみると、機関数は5か国で増加、3か国で同数、10か国で減少、教師数は5か国で増加、2か国で同数、11か国で減少、学習者数は6か国で増加、12か国で減少となっている。

学習者数の教育段階ごとの割合は、初等教育18.4%、中等教育30.6%、高等教育36.3%、学校教育以外14.7%で、前回調査と比べて中等教育が10.3ポイント減少し、逆に高等教育が10.2ポイント増加した。

地域全体のオンライン授業実施率は44.1%と、12地域の中で2番目に低い。

日本語学習の目的をみると、「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」が88.2%と最も高く、次いで「日本語そのものへの興味」が82.4%、「歴史・文学・芸術等への関心」の75.0%の順となっている。

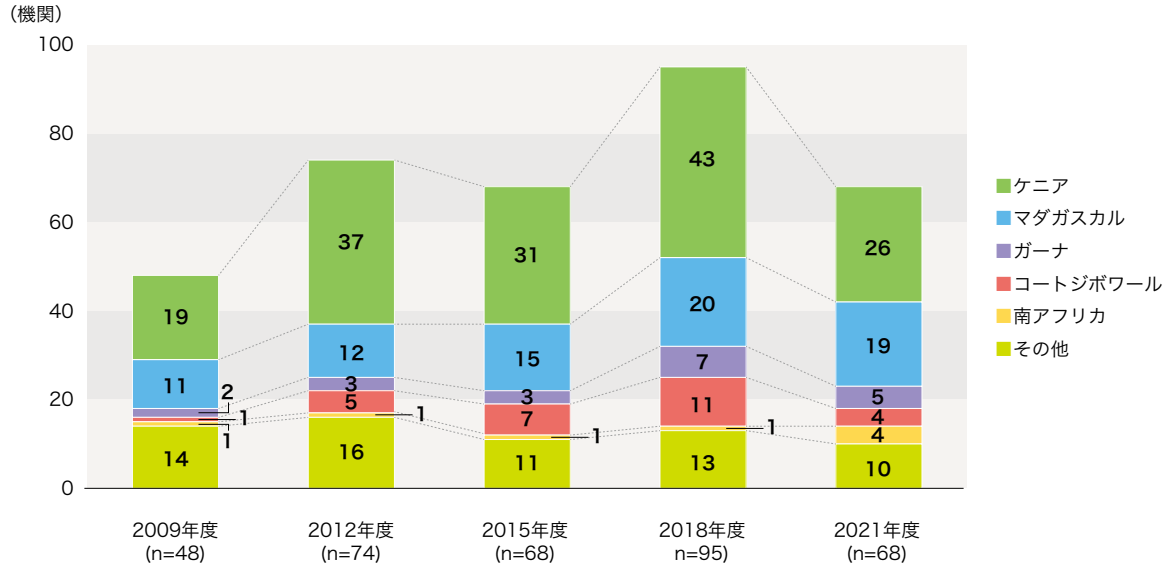
表2-12-1　アフリカにおける機関数・教師数・学習者数

（2021年度の学習者数順）

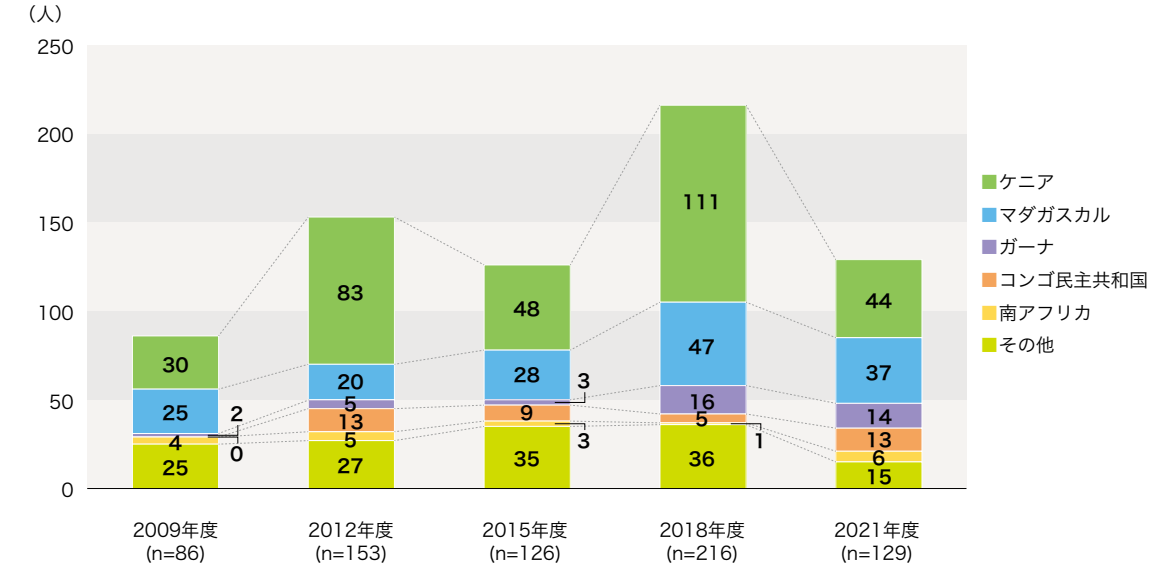
国・地域	2021年度								人口（人）	2018年度		
	機関（機関）	教師（人）	学習者（人）	10万人あたりの学習者（人）	教育段階の構成（学習者）（人）					機関（機関）	教師（人）	学習者（人）
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外				
マダガスカル	19	37	2,413	9.3	15	951	893	554	25,833,588	20	47	2,532
ケニア	26	44	1,726	3.6	586	554	542	44	47,557,157	43	111	2,573
ガーナ	5	14	814	3.3	615	140	35	24	24,658,823	7	16	939
コートジボワール	4	5	634	2.9	0	363	250	21	22,224,509	11	16	3,392
ナイジェリア	2	3	596	0.4	0	0	596	0	140,431,790	-	-	-
ベナン	1	1	142	1.4	0	0	0	142	10,008,749	1	2	225
セネガル	2	1	86	0.6	0	0	86	0	13,357,492	1	1	128
コンゴ民主共和国	1	13	60	0.2	0	0	0	60	29,916,800	1	5	30
南アフリカ	4	6	58	0.1	0	0	0	58	51,770,560	1	1	20
ジンバブエ	1	1	53	0.4	0	0	0	53	13,061,239	1	1	15
カメルーン	1	1	18	0.1	0	18	0	0	17,052,134	2	5	380
ブルキナファソ	1	2	9	0.0	0	0	0	9	20,487,979	-	-	-
セーシェル	1	1	7	7.7	0	0	0	7	90,945	-	-	-
エチオピア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	190
ザンビア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	155
タンザニア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	108
モザンビーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	82
ウガンダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	35
アフリカ全体	**68**	**129**	**6,616**	**-**	**1,216**	**2,026**	**2,402**	**972**	**-**	**95**	**216**	**10,804**

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

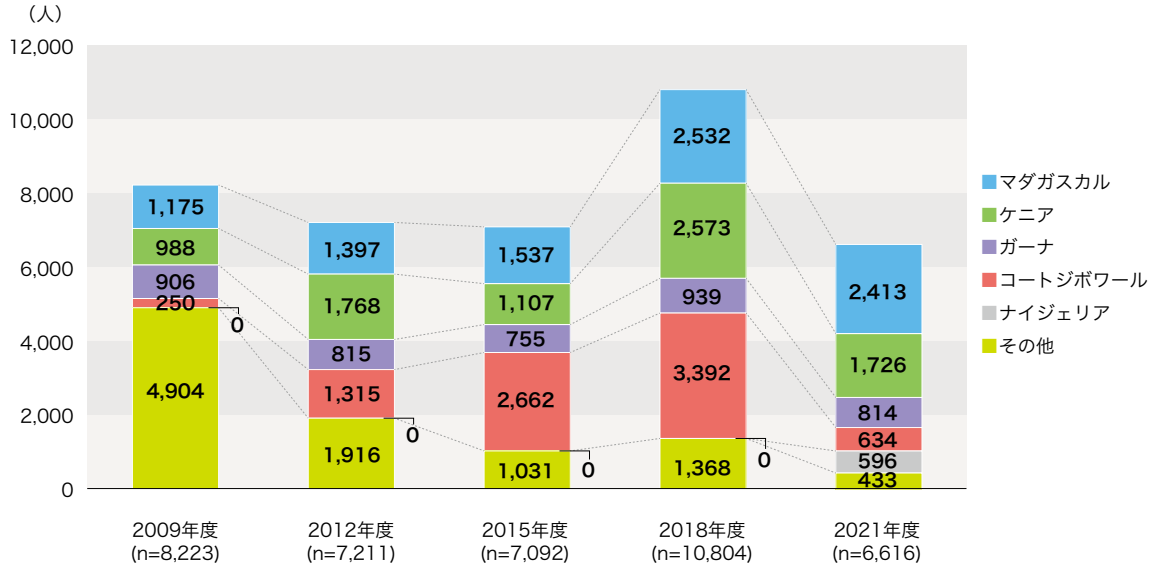
グラフ2-12-1　アフリカにおける機関数



グラフ2-12-2　アフリカにおける教師数



グラフ2-12-3　アフリカにおける学習者数



グラフ2-12-4　アフリカにおける教育段階別学習者の割合

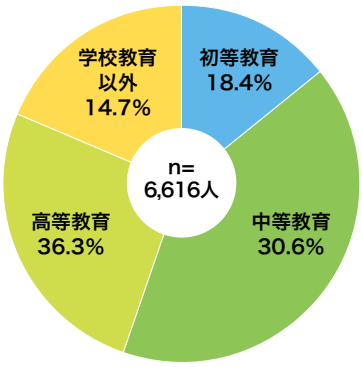
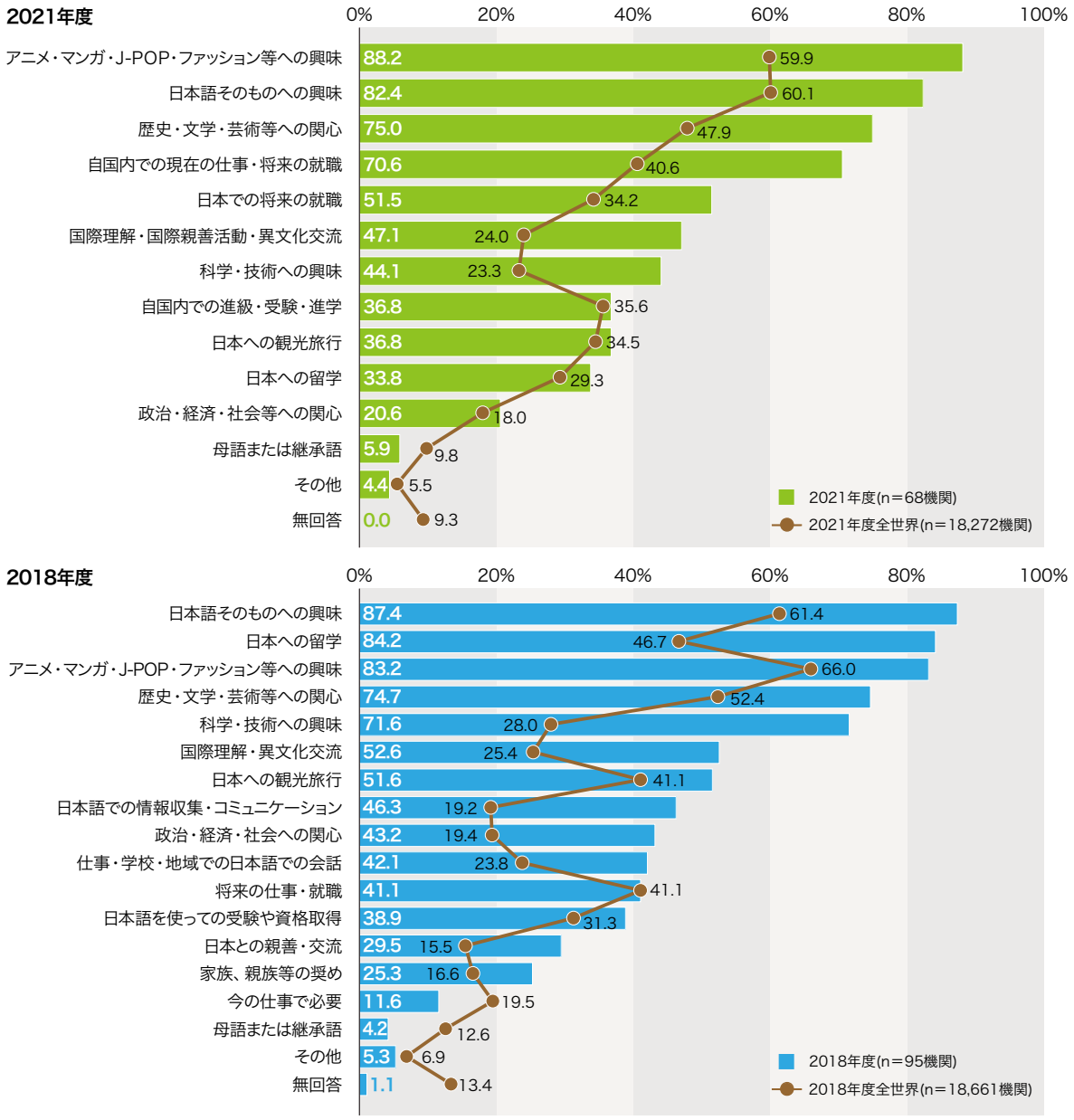


表2-12-2　アフリカにおけるオンライン授業実施率

国・地域	国・地域全体機関数	オンライン授業実施	
		(機関)	(%)
ケニア	26	11	42.3
マダガスカル	19	8	42.1
ガーナ	5	1	20.0
コートジボワール	4	0	0.0
南アフリカ	4	4	100.0
セネガル	2	2	100.0
ナイジェリア	2	1	50.0
カメルーン	1	0	0.0
コンゴ民主共和国	1	1	100.0
ジンバブエ	1	1	100.0
セーシェル	1	0	0.0
ブルキナファソ	1	1	100.0
ベナン	1	0	0.0
アフリカ全体	**68**	**30**	**44.1**

グラフ2-12-5　アフリカにおける日本語学習の目的



各国・地域の動向

[マダガスカル]

中等教育段階のみ、機関数、教師数、学習者数のいずれも増加しているが、その他の教育段階においては横ばいまたは減少している。減少の理由としては、コロナ禍の影響により日本語クラブの活動が少なくなり、通信インフラの未整備からオンライン授業などへの移行も難航した結果、日本語教育の活動が停滞したことなどによる。

また、調査実施期間中に日本語を教授するJICA海外協力隊員が赴任していなかったことも減少の一因である。

日本語教育への関心に比べて日本語教師の数が少なく、機関によっては教材も足りていない状況は以前から継続している。

[ケニア]

機関数と教師数がアフリカ最多のケニアは、初等教育を除く全ての教育段階で、機関数、教師数、学習者数のいずれも減少しているが、これはコロナ禍の影響で閉講した機関が多いことなどによる。中等教育については、前回調査で日本語教育が確認された23機関のうち機関数の大多数を占めていた教育機関は系列校であり、今回調査時点ではそれらの16機関が日本語教育を実施していないことが確認された。

ケニアは一定数の日本人が居住していること、主要産業である観光業において日本語の需要があること、日本がケニアに対する主要な援助国であるなどの背景もあり、アフリカ諸国の中でも以前から学習者数が多い国の一つである。

[ガーナ]

マダガスカル、ケニアに次ぐ学習者数のガーナについても、機関数は約3割、教師数及び学習者数は約1割といずれも減少している。

[コートジボワール]

前回調査時には学習者数がアフリカ最多であったが、日本語教師の海外移住や教育機関の閉鎖等により機関数が4機関（前回調査比63.6%減）に減少した結果、学習者数も634人（前回調査比81.3%減）と激減となり、アフリカにおける学習者数では4位となった。

日本語学習希望者自体は増加しているにもかかわらず、日本語教師が極めて不足していることが前々回及び前回調査同様に課題となっている。。

[ナイジェリア]

今回調査で初めて日本語教育の実施が確認された。2021年にアブジャ大学に日本人教師が着任したことから、今後同大学における日本語学習の活性化が期待できる。

[その他の国・地域]

エチオピア、ザンビア、タンザニア、モザンビーク、ウガンダにおいては日本語教育の実施が確認できなかった。原因としては、コロナ禍の影響による授業の停止や経営悪化に伴い日本語教師を雇用し続けることが困難となったこと、日本語教師及び関係者の国外退避等が挙げられる。